

令和7年度 自動車科「家庭基礎」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年B組
教科書	家庭基礎（第一学習社）	副教材等	担当者による自作プリント

1 学習の到達目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	1編-1章 自分らしい生き方 と家族	家族 1-1 自分をみつめる 1-2 共に生きる家族 1-3 家族に関する法律	家庭基礎を学ぶにあたって ・人間形成の面で家族の基礎的役割とその重要性について理解する。 ・家族周期の意味を知り、家族の発達段階によって課題がそれぞれ相違することを理解する。	行動観察 ワークシート ワークシート
5	3編-1章 経済のしくみ	経済 1-4 労働と生活時間 1-5 社会の変化と消費生活 1-6 消費者の権利と責任	・多様化・個性化の時代を迎え、家族をまもる法律(民法)の重要性がいちだんと増していることを理解する。 ・人の一生と法律とのかわりおよび家族に関する法律について理解する。 ・改正案と比較しながら現行民法の問題点を考える。	行動観察 発表
6	2編-2章 衣生活をつくる	衣生活 1-7 社会保障のしくみ 1-8 人と衣生活のかわり 1-9 衣生活の管理	・人生設計・経済設計について、計画の重要性を理解する。 ・家計管理について理解する。・社会保障のしくみを理解する。 ・衣服の選択の重要性について理解する。 ・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被管服理などの基礎的・基	ワークシート 基礎縫い
7		1-10 被服実習	本的な知識と技術を学ぶ。 ・環境負荷の少ない購入・管理・消費について問題意識を持つ。	エプロン 実習
9	2編-1章 食生活をつくる	食生活 2-1 私たちの食生活 2-2 栄養と食品のかわり 2-3 食品の選び方と安全	・衣服の機能と衣生活文化を理解するとともに、着想の工夫や消費行動における課題を探る。 ・個人と社会のかわりを理解し、主体的に生活設計できる力を養う。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解する。 ・日常の食生活のなかで心がけるべきポイントを知り、それを実践できる力を養う。	行動観察 ワークシート
10		2-4 楽しく安全に食べる	・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおこな働きについて理解する。 ・消費期限・賞味期限をもとに食品を選ぶ力を養う。	実習 実技
11			・食品の品質表示、栄養表示をとおして内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 ・健康の維持・増進、からだの成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・自分および家族の食事摂取基準について調べ、家族の栄養摂取量の平均がいく	

12	1 編-3 章 高齢者とかかわる	高齢者 2-5 高齢者を知る 2-6 高齢者体験	らになるか求める。 ・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学習する。「食品群別摂取量のめやす」の表を使いこなせるようにする。 ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。	
1	1 編2 章 子どもとかかわる	保育 3-1 子どもとかかわる	・日本料理・西洋料理・中国料理の盛りつけと配膳ができ、マナーを心得て食事ができるようにする。 ・高齢社会の現状、貧困や障害など現代社会の生活課題と社会的セーフティネットの仕組みについて学ぶ。	行動観察
2		3-2 子どもを知る	・生涯を通して個人や家族の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。	ワークシート
		3-3 子どもの発達	・胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。	ワークシート
		3-4 子どもが育つ環境	・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。	
2			・子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを認識する。	
3	2 編-3 章 住生活をつくる	住生活 3-5 人と住まいのかかわり 3-6 住まいを計画する。 ホームプロジェクト 人生を設計するために考えること	・新生児、乳児、幼児それぞれの時期の特徴について理解する。 ・からだの発達同様、情緒や言語の発達についても個人差が大きいことを知る。 ・心の発達とともにさまざまな欲求があらわれること、子どもが欲求不満に陥った場合には親の適切な対応が重要であることに気づく。 ・住まいに求められる機能と空間との関係について学ぶ。 ・室内環境と健康との関わりについて、日照と採光、通風と換気、音、冷暖房、などを通して理解する。住まいの管理についての基礎的な知識を深める。 ・理想の家について、多くの情報収集を行い考える。	授業態度 ワークシート

3 評価の観点

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

家庭科では、人間らしい生活をするために、何をどのように食べるのか、何を着て、どう住まうのか、どのような家族や地域をつくっていくのか、そしてそれらに社会がどう関係し、地球規模での環境問題や生活課題がどうつながっているのかなどを学び、自分の生活を自分でデザインする力を付けます。 豊かで主体的な生活を送るために、まずは現在の自分の日常生活に関心をもつことから始めてください。授業では講義や実習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。いずれも積極的に取り組み実践力を身に付けて欲しいと思います。
